

議長定例記者会見 会見録

日時：令和3年7月5日 10時30分～

場所：全員協議会室

1 発表事項

- 「第15回紀伊半島三県議会交流会議」の開催について

2 質疑項目

- 「第15回紀伊半島三県議会交流会議」の開催について
- 知事の国政転出報道について
- 川崎衆議院議員の引退意向の報道について
- 「第15回紀伊半島三県議会交流会議」の開催について
- 知事の国政転出報道について
- 国勢調査の速報値と選挙区及び定数について
- 小林貴虎議員の一般質問での発言訂正について
- 環境生活農林水産常任委員会の採決を予決の分科会で行ったことについて
- 国勢調査の速報値と選挙区及び定数について

1 発表事項

- 「第15回紀伊半島三県議会交流会議」の開催について

(議長)おはようございます。7月の議長定例記者会見を始めさせていただきます。

発表事項の前に、皆さんもご承知のとおり、静岡県熱海市の土石流災害に関して少しコメントさせていただきたいと思います。7月3日の土曜日、静岡県熱海市伊豆山地区で大規模な土石流災害が発生いたしました。亡くなられた方に深く追悼の意を表しますとともに、被災されました皆さまに心からお見舞いを申し上げます。現在、まだ、たくさんの安否不明の方々がいらっしゃいます。現場では、自衛隊や警察、消防の方々等により、懸命の救助活動が行われておりますが、一刻も早く、皆さんが無事に救助されることを願っております。数日にわたる降雨で地盤も緩んでおり、さらなる災害の発生も懸念されております。被災地の皆さん、また、三重県の皆さんにおかれましても、十分な安全対策をとっていただきますようお願いいたします。

それでは発表事項に入ります。本日発表事項が一つございます。「第15回紀伊半島三県議会交流会議」の開催について発表させていただきます。まず、お手元の発表事項1の資料をご覧ください。「紀伊半島三県議会交流会議」は、紀伊半島地域に共通する課題について、三重県議会、奈良県議会、和歌山県議会

の三者で意見交換を行うため、平成20年から毎年開催しているもので、今年三重県が開催県として7月21日、水曜日に多気郡大台町の奥伊勢フォレストピアで開催をさせていただきます。本県からは、私と副議長のほか、新政みえ2名、自由民主党2名、草莽1名、計7名が出席をする予定でございます。奈良、和歌山両県議会からも7名程度の議員が出席を予定しており、会議全体で約20名の議員が参加する予定です。まず視察では、奥伊勢フォレストピア内の施設見学を行い、事例発表会で大台町におけるワーケーションの取り組みについて、関係者の方からお話いただく予定です。今回の議題は三つございまして、一つ目が「ワーケーションの推進について」と「紀伊半島アンカールート

2 質疑応答

○「第15回紀伊半島三県議会交流会議」の開催について

(質問)今日は幹事社さんがいないため、私が代わりにさせていただきます。まず、発表項目の交流会議の関係なんですけども、出席者はこれ、奈良、和歌山含めて、計何人ぐらいの方になるんでしょうか。

(議長)今のところ20名程度と伺っているんですけど。

(質問)約20人程度

(議長)そうですね。他県のことで、まだ動くかもわかりませんが、新型コロナウイルス感染症対策で人数を絞ってございます。

(質問)今回、視察場所が奥伊勢フォレストピアというところなんですけども、これは何か、やっぱりワーケーションに絡んでこの場所がいいっていうふう

(議長)はい。昨年から、秋だったと思いますけども、いろいろなアンケート等でですね、過去の参加者からご意見を賜りまして、そういった意見の中から、三重県はこういったテーマに絞らせていただいたということでございます。

(質問)発表項目について、各社さん他にありましたらお願いします。

(質問)三重県内で開催するのは何回目ですか。

(議長) 5回目です。第3回、第6回、それから第9回、そして第12回、そして今回第15回の5回目でございます。

(質問) 大台町内では初めてですか。

(議長) そうですね。第3回は熊野市でございました。第6回は紀宝町、鶯殿でございました。それから第9回は尾鷲市の向井でございました。そして、第12回はまた熊野市の紀和町でございました。今回は、多気郡大台町は初めてということになります。

(質問) 議題の中に、今日下最大の課題である新型コロナ対応というのが入っていませんけれども、それは、選定にはあがらなかったのはなぜですか。

(議長) テーマとしてね。去年の中では、ワーケーションを求める、紀伊半島三県議会のテーマとしては、時代がワーケーションを使うようになってきてますし、各県でも取り組みが始まりつつあるという、もう既に相当進めてもらってる県もありますけども、そういったことを交流しようということですので、それを三重県としては選ばせていただいたということでございます。

ちょっと追加しますと、前の代表者会議で少しマンネリ化してるんじゃないかとか、昼食食べて終わりだとか、極端な話そんなことでどうなのかなっていうご意見がありましたので、その後、内部で検討させていただいて、事務局と話をし、順番を変えさせていただいています。最後に視察っていうケースが今まで多かったと思うんですけども。今回は集合して、少し時間的に大丈夫だろうかというのはあったんですけども、大体、時間、三県とも来ていただくのにそんなに時間かからないということで、昼食から入って最初に、今までやら会議、講演会、視察なんですけども、今年度は、昼食の後すぐ視察をして、そして、事例発表会をして、最後会議でしっかり情報交換して、内容を充実させていこうということでもございましたし、今回の3つのテーマについても、先日30日の日にですね、参加者が大体決まりましたので、事前に資料をお配りし、三重県内の参加者の、三重県議会議員の方に、集まっておきまして、こういった説明をさせていただいたり、また意識を持って参加をして、議論が深まるような形にしてはどうかということで提案させていただいて、皆さんも同意をいただいたところでございます。

○知事の国政転出報道について

(質問) 発表事項以外の質問なんですが、まず1点目が、県政について、いろ

いゝここ直近で報道ベースでいろいろ動きがあるかと思うんですが、特に鈴木知事が任期途中で辞められて国政転出というような報道もありますけども、仮の話にはなってしまうんですが、知事がこの任期途中で辞められる、そういうことに対して、議長、副議長その部分、もしそういうことになった場合は、どのように思われるか、県議会としてどのように考えているか、その部分を教えてください。

(議長) 今のところ、正式に今聞いているわけでもありませんし、報道ベースで、こんな話があるんだということでございますけども。もし仮にそういうことが、いつあるのか分かりませんが、あった場合は、議会のルールにのっとって、いろいろとルールございますんで、例えば、もし仮に辞職の希望、申し出から30日を超える場合には議会の同意は不要になりますけども、そのもうちょっと短いケースからいくと本会議における同意が必要になりますので、そういったことも準備しとかないかなのかなと思いますけど、今のところはそんな、知事の次の日の金曜日でしたか、記者会見では、今そういった話になってないということでございますので、私はそういうふうには現実としては捉えております。

(副議長) 私も、直接聞いてるわけではありませんので、今の段階では何とも言いようがないんですけども、一般的に政治家が自分の志とかいろんなものがあるかと思えますので、それに基づいて判断をされることは、当然あることだというふうに思いますが、ただその場合には、当然今の重要な役職を担ってるわけですので、その理解が得られるのかどうか、しっかり説明が必要かなということは思います。

○川崎衆議院議員の引退意向の報道について

(質問) あともう1点、また県政で動きの関係で、川崎二郎衆議院議員が、引退する意向をもう既に後援会関係者等に伝えているという報道も出ていますけども、その部分について議長、また副議長、その部分どのように感じられているのか、もしくは伝え聞いている部分があるのかその部分を教えてください。

(議長) 正直に言います。昨日の某新聞を見て、僕はびっくりしました。二つありましたけども、川崎先生も含めて、二つとも寝耳に水の話だったので、私は県連の役員でもないのに、全然その情報として入らないのか配慮されたのか分かりませんが、一切知りませんでした。昨日もその新聞を読ませていただいて、他の方に聞いたんですけど、まだそんな、正式に発表されてるわけじゃないしというようなことでございました。昨日も地議連での会議があったんで、

私も、来賓でおじゃましたんですけども、実はそういった挨拶とか祝辞、向こうもご出席でございましたけど、一切触れてませんので、それはもう想像の域かなと思ってますが、ただ年齢的なこともありますし、挑戦されても、今回後継に誰かを出されてもおかしくはないかなと思います。川崎会長はまだ、4月の大会に就任されたばかりですので、当然まだ意欲的にやってもらおうと思ってましたので、正直びっくりさせていただきました。川崎先生に対する思いは、長年、私も身近に接する機会を、元が、旧津市や旧安芸郡の選挙区で会ったので、ご指導いただく機会が多くございましたので、昨日、新聞を見せていただき、今日も別の新聞で見せていただきまして、現実こうなのかなあ、マスコミの方の取材が、しっかりとして見えるんで、本当なのかなあと思いながら、いろいろお世話になったことを回想しながら、ある時期、川崎先生が、民進党の時期でしたかね。皆さん、自民党からお出になる代議士が多いので、お1人残られて、ご苦労いただいていた時期がございましたので、旧1区の時だったと思いますけども、その中で、あくまでも自民党ということで、頑張られた姿とか、1人残って頑張っている姿とか、自分が次の時代にですね、何とか若返りしたりいろいろ後継育つまで自分頑張らなあかんのやっていう思いをしょっちゅう、身近に聞いてましたので、本人から聞いていましたので、今回なのか次回なんかそれは分からない中で昨日新聞見ましたので、私はある面でショックを受け、そして、今までの思いを回想しながら、今日今回、大変なのかなと思いながら、本人には確認をしておりますけども、そういう思いをはせたところでございます。以上です。

(副議長) 私のほうからも、もし報道が、そういう事実であるならば、川崎先生のご功績や政治活動に対しまして、感謝と敬意を出させていたきたい、お疲れ様でしたというふうに申し上げたいと思います。

(質問) では各社さん発表以外、質問ありましたらお願いいたします。

—第二県政記者クラブの方も含めてお願いします—

○「第15回紀伊半島三県議会交流会議」の開催について

(質問) 三県交流会議ですけど、去年確か30人を超えてたと思うんですけど、あえて今年は何人数絞ったんですか。

(議長) そうですね、去年が28名で、今年は新型コロナウイルス感染状況があるんで絞って、会場の都合やバランスを考えて、あえて、感染リスクを低くするために絞らせていただいたというのは事実です。

(質問) かつては一泊でやってたじゃないですか。例えば、高野山でやった時とか、このところ宿泊はやってないんだけど、これもコロナの関係なんですか。

(議長) それもあると思います。特に今年、今回はとにかく日帰りで短時間で中身の濃いものということで、ルールにのっとってやらさせていただきます。

(質問) 第4回、熊野でやった時に、熊野選出の県議会議員の谷川さんであるとか藤根さんであるとか、そこに意見を聞くこともなく勝手に視察地も決めて、例えば熊野だったら赤木城でしたっけ、兵庫県の天空の城と同じようなやつがあって、それを熊野市が観光として売り出そうとしてるんだけど、そこんところは視察はなくて、近くの千枚田でお茶を濁しちゃったのがあったりとか、熊野選出の県議会議員から不満が出て、少なくとも、なるならない別にして事前に、やるところの意見は聞いてほしいみたいなことが、日沖議長から申し送りですっちにいったと思うんですけど、そういう関係も全部踏まえて今回大台なんですね。

(議長) そうでございます。去年の秋に、アンケートとかいろんなことで検討させていただいて、今回の大台であるということでございます。アンケートの中にも大台とかワーケーションの内容、フォレストピアの具体的な名前も出ておりますので、そういった辺りを尊重させていただいたということでございます。

(質問) さっきの質問の関連になるけど、少なくともコロナ禍で、ある程度それはテーマから、本来的にあってしかるべきだけどそれはないと。ただ、和歌山は和歌山で、ワクチンでの封じ込め含めて、結構知事会でも有名などこなん、その辺の本来意見交換ってのがあってしかるべきだと思うけど、三県の議会の議員の方からはコロナについて情報交換と意見交換しようって話は全くなかったんですか。

(議長) 今のところ、先ほど言いました各県からのテーマはその3つに、それぞれ奈良、和歌山、三重県はワーケーション。

(質問) だから三県の中でそれぞれが出してきた案の中にコロナ関係は一切なかったんですね。

(議長) 特に際立ってはありませんでした。

(質問) 際立つってどういうことですか。あったけど、最終的に三重県の議会事務局でまとめた時にその案を落ちたのか、それとも最初からそういうことが俎上に載ってなかったんで全くならなかつたのか。

(議長) 1つ2つ、一覧表にまとめてはあるんですけども、例えば、コロナ関連ということで3人ほど上げてもらってる、前回の参加者の中で上げてもらってる方もあります。

(質問) 3人てのは三重県議会の中で3人。

(議長) そうです。

(質問) 他県からは何かそういう案は出てないですか。

(議長) 他県からは聞いてません。

(質問) 他県からは分からないんですね。

(議長) はい。ちょっとわかりません。ワーケーション自体も、コロナ禍における1つの取り組みとしてのこともあって、ワーケーションってことも選ばれてますので、その中で、議論できることもあるかなと思っております。

(質問) 関心のあることをやられるのは構わんけど、ワーケーションと大台って三重県内であんまり結びつかないですよ。むしろその南の方だし。もともとワーケーションそのものは和歌山県白浜から始まってわけだから、これは和歌山県さんでやるときは白浜でやるとか、奈良に関してはワーケーションってのは全く県内の関心にもなってないし、それからいくと、ちょっとずれがあるのかなって感じはしますけど。とりあえずワーケーションをやられると。

(議長) はい。

(質問) 大台が自然環境の確か世界遺産かなんかになったじゃないですか。あの関係のことは話し合えないんですか。

(議長) 大杉谷とか、そういった辺りの話題も、事例発表の中で、大台町にお

けるワーケーションの取り組みっていうのもあるわけですけども、発表者の中には関わってみえる方とかその自然を生かした形のワーケーションを具体的に発表いただけるのかなという期待はしているところでございます。

(質問) 講師が去年みたいに岩出市でやったときみたいな講師が誰か話されて、それについての意見交換なんですか。

(議長) 最初に視察をさせてもらった後、お二人の方に発表いただいて、そして休憩後、交流会議という形で。

(質問) お二人ってのは誰ですか。

(議長) 大台町におけるワーケーションの取り組みについてということで、株式会社V e r d e大台ツーリズム代表取締役の野田綾子さん、株式会社宮川観光振興公社の副社長の寺添幸男さん、のお二人です。

(質問) それは後で、所属団体名と、出してもらえますか。

(議長) 資料はできてますのでまたお渡しします。

○知事の国政転出報道について

(質問) あと発表項目外ですけど、さっきの後任知事選で、候補者の方が国交省の一見さんという形で、国交省もお辞めになってますけど、1日付けで辞めたいんですけど、その話が出てますけど、これに相乗りって話があるんですが、議長の知っておられる中で、相乗りの的なことがあるんですか。

(議長) 申し訳ございません。昨日の新聞でびっくりしただけで私にとっては寝耳に水で。

(質問) 新聞でびっくりはおとといですか。

(議長) おとといですか。ごめんなさい、一日ずれていますね。土曜日です。申し訳ございません。土曜日の新聞です。それ見てびっくりして昨日の会議で、誰もしゃべらんもんでおかしいなと気になりましたけど、一切なかったです。

(質問) 副議長はいかがですか。

(副議長) いろんな動きがあるんだなと思いました。

(質問) 官僚の方が出られるというのは、本来的に無投票か相乗りがないと大体出てこないのので、23年の鈴木さんはちょっと別にして、もともと衆議院に出られたとき官僚は辞められてたんで、事情が違うと思うんですけど、その意味からいったら、ある程度、定年まで2年残して、国交省をお辞めになってるってことは、ある程度下準備ができてるからだと思うんですけど。仮に相乗りする場合に、県議会で同じような縮図になるんですが、正副議長の相乗りでやられてるんで、それからいったら知事選もある程度そういう流れっていうのは、今の現状では致し方ないと思われませんか。議長はいかがですか。

(議長) 何かコメントしにくい部分でありますけども、実際そうやって動いているのかどうかも分かりませんので、言いようがありませんけども。もし、急に辞められることがあったら、県政の安定というところでいくとどうなるのかなあという心配がありますので、そんなこともあるのかなとか、戦うこともあるのかなとか、そういった程度であります。

(質問) 相乗りなら県政が安定しますよね。

(議長) 安定するというかいきなりの選挙で、いろいろなこと、県は今、新型コロナウイルスをはじめとする課題が山積する中で、いろいろ勢力がいろいろなところに動いてしまうっていうことになりますので、そういったことも考えられる方があるかなっていうぐらいで僕はそれを考えているわけではないので、普通は選挙されますよね、そんなことがあるとしたら。

(質問) 自民党と自由民主党県議団で会派統合されて、自由民主党っていう会派になられたんですけど、ここではこの話はまだ出てないんですか。後継知事選の話とか。

(議長) 正直言いますとまだ1日から一応会派は統合ということで合併になりましたけども、事務手続き上は、でもまだ、一堂に会するのは13日でございますので、一切その話は出てございません。

(質問) 新政みえはいかがですか。

(副議長) 新政みえも私が聞いている中では、6日、明日、会派総会があるって聞いてますので、そこで議論がされるのかどうか分かりませんが、その場

かなって思っています。

○国勢調査の速報値と選挙区及び定数について

(質問) 国勢調査の速報値が出て、一応この前の代表者会議、その中で確定値出てから考えようと、検討しようという話でほぼまとまって、多分確定値が出るのはちょっと今年遅れ気味なんで10月か11月か、11月ぐらいだと思うんですけど、出た段階で一応その数字を載せて、再度この前出した48、成立した条例がいいかどうかの検討するのはあり得るんですか。

(議長) あのとときも少し触れさせてもらいましたが、当然11月の確定値をもってというのは、前からの委員長報告でもいろいろな方の発言でもあったわけでありまして、そのときになりましたら、そのときもお話ししましたが、例えば、5月11日の改正条例の考えとして、総定数の決定だとかから、強制合区及び一人区の調整だとか、さらには南部地域の4選挙区への加配等を基軸にしながらいろいろなご意見、地域地域でいろいろなご意見もあろうと思いますので、そこで固めて議論をさせていただくことになると思います。

(質問) それは形としては今段階では、まだどういう形にするかも決まっていなかったのか、あるいは議長の構想の中で特別委員会を設置するなり、あるいは代表者会議で諮っていくなり、何かお考えがあるんですか。

(議長) 就任のときも触れさせてもらいましたが、代表者会議で諮っていくということでございます。

(質問) それは副議長も同じお考えですか。

(副議長) そうですね。議長が言われた、先ほどの3点が非常に重要なので、その3点に沿って照らし合わせるっていう作業だと思います。

○小林貴虎議員の一般質問での発言訂正について

(質問) 小林貴虎県議の答弁書をもってたつていう発言に対して、議長決裁で一応会議録から消すと、ただし、会議録にただし書きを入れるというような形になったみたいですが、これについては議長がそういう形で、ここは削りましょうと判断した根拠はなんですか。

(議長) 別に僕がそうしなさいと言ったことはないんですけども、実質的に本人と会派の団長や先輩方が相談されて、あの言葉は誤解を招きかねないので、

本意はそういうことで、実際なにもそういったやりとりがなかった、文書でのやりとりがなかったわけだから、発言訂正として申し出がありました。その後も、少し議会運営委員会でも他会派からのご意見ございましたので、その後も一度確認をさせてもらったところ、一切そういった文書はございませんので、私もビデオというか見せてもらいましたけども、その時の質問に入る前になんかこう、前座のような、つかみのようなときに、もうザーッと早口でしゃべってみえて、という感じだったと思います。そのときに本人の感覚では、ああいった誤解を招くような言い方をしてしまったことによって、自分で本意に従った訂正をされたということで、5カ所ほどあったと思いますけれどもそれについては、すべてチェックさせていただいて、訂正を認めさせていただいたところでございます。

(質問) 議場のテレビ中継とかそういうものがない時代ならともかく、今すべて同時にリアルタイムで流れていて、あと会議録っていうのはどっちかっていうと記録ですから、そのところとの整合性ってのは当然問われるわけで、先にもうすでに流れてですよ。それが、会議録だけそこだけ削除するって形になると、これはご都合主義的に会議録作ってるんだという誤解も招くじゃないですか。それからいくと、本来、一応もう議場で流した通りの形で出すのが本場で、あと、そうじゃなかったとかどうか言うのは小林貴虎県議が、ご自身の後援者なり、各会派に説明されればいい話で、公記録を削るっていうのは本来的に筋が違うんじゃないですか。

(議長) いろいろこう、原文に対して、ちょっとした言い方の間違いだったら、修文で、事務局レベルで直したりということもありますし、全く違う取り消しの場合だったら、議会にかけないといけないこともあると思いますけども、本人の意図と違う言い方で誤解されかねない言葉だったと思いますので、訂正という形で。その後、二回目の議会運営委員会でも話題になりましたので、それについてどうするんだという意見もありましたので、今ちょうど議会運営委員会のほうで、どういった形で、対応するのかって、例えばテロップをつけるのかとか、そういったことも考えてもらっておりますが、まず、訂正という形で認めたところでございます。

(質問) 副議長にお聞きしますが、元代表がもともと見つけ出されたという火をつけられたという問題視された案件で、なおかつ、議長のほうがここは議長決裁で削るっていうときに、副議長との間のお話しあい、なかったのですか。

(副議長) 議長のほうから、中森団長とそれから小林貴虎議員のほうから、そういう訂正の申し出があり、発言誤解を招くことは今あったという説明を受けました。それでルールに基づいて、訂正の対応をしたいというお話がありましたので、議長にルールに基づいてやっていただくということだというふうに理解してます。

(質問) それは副議長としても了承されたということですか。

(副議長) そうです。

(質問) 三谷さんはまだ収まってない感じがあるけど、そこがあってもなおかつ副議長判断としては、了とするということですか。

(副議長) 誰が収まってるか収まってないかは別として、そのルールに基づいて、手続きに基づいてやることに対して、そのようにしていただければというふうに思っていました。

(質問) 翻って小林貴虎県議の人権発言のときに、代表者会議で、もう2度目はないと、今後はそうじゃないと、あれ言った範囲というのは、あくまでも人権に関する発言なんですか。それとも、県議会等で何らかの物議を醸す或いはその議員の品位という、品位条項があるじゃないですか。そういうものも含めて拡大的にそういうことが起きた場合の2度目はないよという意味なんですか。

(副議長) 当然、我々は議場内での発言するのは責任が伴うものですので、前回是人権の問題でもいろいろありましたけれども、その人権問題だけに限ってというわけじゃなくて、さまざまな発言に対して、やはり責任を負ってるものだというふうに思ってますので、それで、例えば、今、政治倫理審査会の議論をされてますけれども、例えばそういうところで問題にされるようなことがあれば、それは大きな問題だというふうに思っております。

(質問) つまり、小林貴虎県議に関して言うならば、人権に何も限ったことではなくて、次に議会基本条例にそうところの品位条項とか、その辺に抵触するものがあれば、当然その倫理にかけて、ある程度判断を下すということによるんですね。

(副議長) 当然そうなると思います。

(質問) 今回の議事録削減云々とかいうのは、ていうか、その元になった発言というのは、品位条項であるとか、そういうものに該当しないということですか。

(副議長) おそらく懲罰委員会の対象、今いわゆる品位条項って何かちょっとわからないんですけど、例えば懲罰の対象になるかとか、そういうことだというふうに理解すれば、ルール上それに当てはまらないというふうに思いまして、議長のほうが、訂正という対応されたってことだと思います。

(質問) 議長のご判断はいかがですか。

(議長) 今、副議長が、申された通りでございまして、あくまでも、誤解を招きかねない言い方をしてしまったので、訂正でということですので、悪意とかそういうのは全然ありませんので、今回は単純な、さっきちょっと削除って言葉使われましたけど、訂正と、単純な訂正ということで認めさせていただいたところでございます。ただ、あのとき、元代表や現代表から、議会運営委員会において、部長にも私にも確認ありました。その中でのやりとりありましたんで、相当しっかりと、その辺を考慮してほしいというようなことを全会派に向けて言われたと思いますので、中森団長としてきちっと指導をするというときに、手を挙げられて発言されたのかなと思っています。

(質問) むしろ悪意があろうがなかろうが、ああいう発言があるということ自身が、議員としての見識としていかななものかと。仮にその答弁書が流れてるなら、記者クラブは、事後に答弁書は提示されてますけど、事前についていうことのほうが、はるかに問題で、それが、仮にあったとしても、そこを軽々に一般質問で枕振りとは言いながら、発言すること自身に議員としての知見の浅さというのを感じるんですけど、その辺も全然問題にならないんですね。

(議長) 問題に全然ならないかって言ったらどうかと思いますけども、本人も中森団長と議長室までおみえになって、いろいろ反省の、誤解招いたということでだいぶ言ってみえましたので、ついては、やっぱり言葉は慎重に選んで発言なり質問をするというのが三重県議会のルールだからってことは厳しく伝えさせていただきました。

○環境生活農林水産常任委員会の採決を予決の分科会で行ったことについて

(質問) 前期の議会事務局体制、今期もそうですけど、特に今期は事務上のミスがある程度目立っている。5月11日の48定数のときの午後の採決のとき

も、一部やり方が違うんじゃないかという意見が出るぐらいおかしかったし、今回、関係常任委員会で採決するべきものを予決の分科会のほうでやっている。メンバーは変わらないから、名称変わるだけで、その委員会の。そういう誤解はあるにしても、過去そういうことがない形の中で、比較的前期の最後1年から、それと今期になっての議会事務局体制が刷新されてからミスが目立つじゃないですか。この辺、議長はどう思われますか。

（議長）前正副議長のときはそれなりの対応はあったか分かりませんが、私と稲垣副議長に変わってからも、そういったミスというの指摘をいただいていますし、担当としては議長室へ来て、そのミスについて気づいた時点で早急に土日関係なくお電話もありましたし、説明もございました。なかなかあの内容は非常にどちらかっていうのがなかなか分かりにくい内容だったかも分かりませんが、当然議会事務局のプロとしてそうやって誤ってはいかんし、また、あえて言うなら、ここまで求めるのはどうかと思いますけど、正副委員長なり私どもの本当にチェックもきちんとしていかなあかな、もっと詳しく内容を見て、分科会なのか常任委員会なのかというのは、今回のことで改めて慎重に見ていく必要があるんだということを反省させられたところでございます。

（質問）副議長としては事務局の目立つミスについてはどう思われますか。

（副議長）当然ミスすることによって、県民の不利益になるということは許されることではありませんので、やっぱりそこはしっかりと毅然と対応いただけるようにもう一度、例えば何が問題なのかというのを見直して、ミスのないようにしっかりとしていきたいと思えます。

（質問）議会事務局の職員の懲戒処分については議長権限だと思うんですけど、これについて何らかの口頭注意なり、なんなりの処分っていうのはあるんですか、懲戒までいかなくても。

（議長）今回のことにつきましては、正直に気づいたときに申し出もございましたし、早急な対応で28日大変忙しい中での急ぎよ、常任委員会の開催でございましたので、たまたまこのときに分科会等がありましたので、タイミングよく委員会もできましたけれども、全然その対応がしにくい状況のときもあります。そういったことも考えますと、今ご指摘あったことにつきましては、今回はこういったことが二度とないようにということで口頭の注意だけさせていただきますけれども。

(質問) 口頭注意はされたんですか。

(議長) その受けたときに、気をつけてくださいということを行いました。

(質問) 文書として残る口頭注意じゃない？

(議長) じゃないです。その時の受けたときに、対応策をすぐ考え、提案もありましたので、スムーズにやってくださいということでお答えさせていただきました。

(質問) 確認ですけど、懲戒にも当たらない口頭注意には文書を出すんですけど、普通は。それも今回は一応見合わせたということによろしいですね。

(議長) はい。これまでもそういった分科会、常任委員会の非常にどちらか分りにくい内容の部分もございますので、そういったところの錯覚があったのかなということで、情状酌量かなという気持ちもございました。そのまま素早く対応してくださいっていう話だけさせてもらいました。

(質問) 第一義的に書類とか委員会の素案というか、運営シナリオ作っている事務局に責任ありますけど、最終的にはその正副委員長に一番大きな責任があって、なおかつその関係委員にも当然責任はあります。でも、事務局職員にも当然あるわけで、一応議長はお優しいからおかばいになっていきますけど、過去一度もこれないんですよ。つまり予決委員会ができてから、こういうことは。ということは、よくあるミスだとか、どうのこうのって言い訳は通らないでしょ。今の事務局体制に問題あるというふうにはお考えにならないですか。

(議長) いろんな形のミスがあります。過去にあったか分かりませんが、今ご指摘のように、こういった常任委員会、分科会のどちらで議論するかについては今、初めてのことでないですかとご指摘でございますので、またこれも改めて調べさせてもらわなあかんと思いますけれども、今回についてはこれを教訓に次の対応はまた考えていきたいと思っています。

(質問) どうも。

○国勢調査の速報値と選挙区及び定数について

(質問) もう1点だけ、すいません。先ほどお話にあった国勢調査の速報値のお話ですけども、結果的には、例えば伊賀で人口に基づく人口割実定数です

か、変わることになったわけですね、計算し直すと。それについて、青木議長も稲垣副議長もその率直な受け止め、ご感想はどのようにお持ちになりますか。

(議長) 今、率直に速報値としてこういう数字が出てきたのかなということで、あのときにもお話させていただきましたが、確定値でもってしっかり議論していこうと決意をしたところでございます。

(副議長) あのときというか、9月の月別人口調査に基づいて議論していましたが、それに対して速報値が出たということで、流れを見ていましてこの速報値を見ると、平成27年の国勢調査と比較して4万5000人減、マイナス2.45%となっておるということから、人口減少の傾向は当然9月のときと我々が調査した段階と同じでありますし、やはりその流れというか、傾向は一緒だなというふうに感じています。

(質問) 聞きたかったのは、そういった人口割実定数が試算し直したら変わるぐらい大きく変わるものと想定していましたが、想定外に変わったというわけじゃなくて、人口割実定数も変わるぐらい変わるだろうというふうに発表前から思っていたという感じですか。

(議長) いや、そこまで想像はつかなかったですけども、また確定値、あと半年ですね。また変わるのかなと思ったり、やっぱりそういったものなのかなという、数字というものはね。ただ、副議長言われましたように、大きな流れとしては特に人口減少傾向がありますし、あとは先ほどの三原則に従って、その時点で議論をもう一回しっかりしようねということでございます。

(質問) 日沖議長のとくに、10月に正副議長案出したときに、元々速報値が出ても、確定値まで待たなくても速報値と確定値はそんなに差がないだろうと。速報値で判断そのときしたらいいじゃないかとのことだったじゃないですか。今回、速報値での判断はちょっとねって、じゃあ確定値まで待ちましょうというその理論のずれというのは何なんですか。

(議長) 僕の捉え方は今、記者が言われたような感じじゃなくて、前議長も速報値も参考にしながら確定値という意味で当時言われたんじゃないかなと思っ
ていますけどね。

(質問) あのときはだから、速報値が出るのが4月以降で、確定値は10月とかその辺りだろうと。わざわざ10月まで待っていなくても、仮に速報値出た

段階で、それでほぼ変わらないからいいじゃないかというふうなお話だったじゃないですか。それからいくと、今回は速報値で判断しないで確定値で、とにかく出てからにしましょうってお話が委員の中からあって、代表者のメンバーの中で。そこで固まったじゃないですか。それはほぼ同じ期数内だから今の、48の定数に賛成された方々の意見というのは変わってないわけで、その人たちが一方で違う形で、確定値でいいんじゃないかと言っているこの理論のずれというのはどう解釈したらいいんでしょってということです。

(議長) 今も言いましたけれども、日沖前議長が代表者会議の中で言われた発言とか、パブリックコメントに対する考えの中でいくつか発言してみえて、国勢調査結果について述べられた内容に関すると、この国勢調査結果というのは国勢調査結果の確定値というふうに私は認識していました。国勢調査の確定値と月別人口調査結果に大きな乖離がある場合に、必要に応じてお諮りさせていただく、そんな趣旨の発言をされていたと取っていたので、今回は今回で速報値ですので、11月にということで同じ気持ちかなと思っています。

(質問) 議長はあのとき代表者メンバーでしたっけ。

(副議長) 代表者メンバーです。

(質問) 議長。

(議長) 私は違います。すいません、申し訳ないです。副議長は入ってもらってました。

(質問) 副議長はそうでしたけど、議長は違いますよね。

(議長) はい。すいません。記録を見たら、そういう記述があったので、一緒だなど、今回とそんなに変わらないと思っています。

(質問) どうも。

(議長) ありがとうございます。また今後ともどうぞよろしくお願いします。

(以 上) 11時20分 終了

